歴史の道を歩く
the history of road
Act.2

羽州浜街道（2）

本荘から三崎峠までの浜街道

本荘から砂丘の道を金浦へ

北国街道とも、酒田街道とも呼ばれた羽州浜街道は本荘城下を子吉川沿いに走り、中横町から浜ノ町までの道筋は藩政期の頃と今も大差はない。道はその後、住吉神社の北側に湊のあった古雪町から城下西端の浜ノ町に至った。

城下を離れた浜街道は、菖蒲園のある南西に延び、現国道7号と浜の間を海士剥村（西目町）に向かったが、現在でははっきりした道筋は分からなくなっている。また、水林を通って獺袋（西目町）に通じる山道は、明治12年（1879）に整備された新酒田街道である。

海士剥の北外れに明治3年（1870）にこの街道を通った東本願寺の僧、現如上人の碑が残っている。海士剥の海辺を通り、中高屋（西目町）の東端から上高屋、出戸（西目町）までの海岸には塩焚き小屋が点在していた。日本地図を作るため海岸を歩いて『測量日記』を著した伊能忠敬によると、当時、尼剥村（海士剥）は家が7軒あり、高屋の地名は塩焚きの小屋にちなむものらしく、伊能の記録では中小屋、上小屋となっている。現在ここには当時の浜街道とラインをほぼ同じくする、出戸への海岸道路ができている。

①

出戸の砂道から東方に中世城館跡、浜館の高台を見て、両前寺川（仁賀保町）を渡って仁賀保領平沢に入る。平沢は中世後期から仁賀保氏が領地とした所で、先の『測量日記』によると、104軒の家並があり、平沢湊の町には八幡宮や寛永2年（1625）に旗本となった仁賀保内膳家2000石、内記家1000石の陣屋があったという。平沢は概して小規模な町割りで、百姓家や足軽、下級武士の家、侍屋敷が入り交じっていたという。

平沢と琴浦の境の海岸には「南無阿弥陀仏」の立石があって、藩政期の平沢絵図にも図示されている。仁賀保領は西端の鈴村までで、続く三森村は仁賀保と六郷領（本荘藩）の相給という混合支配地となっていた。

白雪川は渡し船で越えたが、付近の浜街道は明治にできた酒田街道と重なって芹田に入る。浜街道は黒川村（金浦町）で天松寺と三嶽神社の中間を貫き、現国道7号と交差しながら金浦に入った。

金浦湊は『出羽国風土略記』にもあるように、佐渡の小木湊、津軽の深浦湊とともに北国三所の良湊とされていた。金浦湊は鱈漁の中心地として栄え、藩政初期にはすでに鱈船に課税されるほどであったという。また、金浦からは東部山地に塩の道としての矢島道が分かれていた。

③

⑤

④

芭蕉も訪れた名勝象潟

赤石から大塩越（象潟町）までは、海岸線の波打ち際を通る砂道の浜街道は、大塩越の手前で現国道と交差する。象潟は藩政期には塩越村と呼ばれ、文化元年（1804）の大地震で陸地となるまでは大きな湾であった。

その光景は、江戸時代に象潟を訪れた松尾芭蕉が『奥の細道』に、

「南に鳥海、天をささえ、其陰うつりて江にあり」「江の縦横一里ばかり」で、憂いに沈む美人の風情を感じさせる土地だと記したことで知られる。

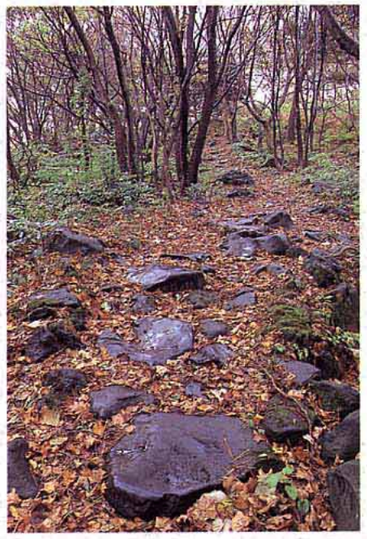
隆起後の街道は、蚶満寺を左に見ながら塩越の欄干橋を渡った。橋のたもとに残る船つなぎ石や、熊野神社などに昔の面影が漂っている。村の太宰府神社を過ぎてから再び海岸に出て関村、川袋まで海岸の砂道を通った。川袋からは鳥海山が海に裾を引く山道が爪先上がりとなる。大須郷付近の道は、『東西遊記』を残した橘南谿によれば、狼の出る怖い所となっている。大須郷から小砂川まではゆるい下りで、今は鳥海山の山麓まで広大な田圃が広がっている。

浜街道最大の難所となった三崎山は険しい岩石が左右に連なり、所々に踏み抜くような穴がいくつもあって篭山ともいわれた。旧道は今、三崎旧街道として残るが、タブノキの暗い森に一里塚跡や大師堂などがある。のちに明治新道が現在の国道付近に開削された。

現在、山形との県境付近の海岸集落は、たびたび領主が替り、藩や天領（幕府直轄領）などの絵図面は概して乏しいという。現在の山形県に入って女鹿から吹浦西浜を通って酒田まで、整備状況があまり良くなかった流砂、飛砂のはげしい難儀な道が羽州浜街道、北国街道であった。

②

⑥


⑨

⑧

⑦

①永泉寺山門（本荘市出戸町字給人町）
永泉寺は本荘藩主六郷家の菩提寺で、山門は慶応元年（1865）建立。すべて欅材で作られ、階上に仏像や壁画がある。県指定有形文化財。

②芹田の波除石垣（仁賀保町芹田）
波による浸食から海岸や農地を守るため江戸時代に築かれたもの。点在する小丘を石垣で結び、総延長は369メートル。金浦町飛にも残る。

③秋葉山大権現碑（金浦町金浦字金浦）
秋葉山は静岡県にあり天明年間にこの地に勧請したものと伝わる。石の空洞には波宇志別神社や湯殿山神社等の御札が納められている。

④金浦台場跡（金浦町字港嶋）
江戸時代末期、欧米列強からの外圧に対する海岸警護のため、監視や砲台設置の目的で幕府が全国に造らせたもののひとつ。本荘藩の築造。

⑤方角石（金浦町字港嶋）
金浦台場跡に設置されているもので、県公文書館に残る御台場絵図にも描かれており、位置は設置当時と変化していない。金浦町指定文化財。

⑥蚶満寺（象潟町字象潟島）
曹洞宗の名刹。仁寿3年（853）天台宗の慈覚大師開創と伝えられる。境内には山門、地蔵堂をはじめ数々の史跡があり芭蕉も訪れている。

⑦浜山の道標（象潟町浜山）
羽越本線小滝踏切脇に立つ。左の道標には「右おおかん　左　やまみち」右の道標には「右　酒田街道　左　上郷通路」と彫られている。

⑧十返舎一九作・歌川國信画
『方言修行・金草鞋』二十一編より
江戸時代の旅ガイド。本編は鶴岡から久保田、盛岡、恐山までの旅。小砂川（象潟町）の街道風景を滑稽に描いている。（町立角館図書館蔵）

⑨三崎山の旧街道
（象潟町小砂川字三崎山）
本街道一の難所として知られ、現在も当時とほとんど変わらぬ様子を残す。一里塚跡、大師堂、戊辰戦争慰霊碑などが石畳の道沿いに点在する。